

1. 担当 PM

岡 瑞起（筑波大学 システム情報系 准教授）

2. クリエータ氏名

石戸谷 由梨（お茶の水女子大学 理学部 情報科学科）

金城 拓登（沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科／
かまちょっかい株式会社）

江畑 敬太（東京理科大学 大学院先進工学研究科 電子システム工学専攻）

3. 委託金支払額

2,736,000 円

4. テーマ名

GPS と合成音声による防犯スマートフォンアプリケーションの開発

5. 関連 Web サイト

あんしん夜道の公式サイト：<https://anshinyomichi.studio.site/>

6. テーマ概要

本プロジェクトでは、夜道で不安を抱えながら歩く女性に安心感を与える、家族やパートナーとの連携を促進させる iOS アプリケーション「あんしん夜道」を開発した。この iOS アプリケーション（以降「アプリ」）は、GPS による位置情報の取得と共有、家族間のリアルタイムコミュニケーション機能、緊急時の通報機能などを備えており、女性の安全を守るための新しいソリューションを提供している。また、本プロジェクトを通じて、夜道における女性が抱える不安という問題に対する社会的な認知の拡大を目指している。

7. 採択理由

本プロジェクトでは、「あんしん夜道」という防犯用のスマートフォンアプリを開発し、夜道を歩く人々が安心して移動できる環境を整えることを目指している。このプロジェクトはフェイク通話、防犯ブザー、緊急通報、録音などの機能をアプリケーションに組み込むことで、夜道での安全を確保することだけで

なく、夜道でのジェンダーギャップ解消に貢献することにも繋がると考えられる。また、リアルタイムの犯罪情報共有や AI とのスムーズな会話、アプリ内での通話、犯罪率を視覚化したマップの搭載など、革新的な機能を追求していく姿勢も評価される。

本プロジェクトは技術的なチャレンジや社会貢献性が高く、期待される成果によって多くの人々が安心して夜道を歩ける環境が整うと考えられるため、採択するに相応しいと判断した。

8. 開発目標

本プロジェクトの主な開発目標は以下の 4 点である。

1. 自動的な帰宅見守り機能の実装
最寄り駅から自宅までの特定区間における、女性の位置情報を家族やパートナーと自動的に共有し、帰宅状況を見守ることができる機能の開発。
2. 夜道の不安を共感するためのアニメーション機能の実装
夜道で不安を感じている女性のキャラクターをアニメーション化し、その気持ちを家族やパートナーが共感しやすくするための機能の開発。
3. 家族やパートナーとの円滑なコミュニケーションを図るための各種機能の実装
通話、チャット、リアクション送信など、夜道での不安を気軽に共有し、適切なサポートを受けられるようにするための機能の開発。
4. 緊急時に備えた各種ツールの実装
緊急通報、防犯ブザー、フェイク通話など、もしもの時に女性の安全を確保するための機能の開発。

これらの機能を通じて、夜道という場面に特化した、女性の安全と安心を守るためのアプリケーションの提供を目標としている。

9. 進捗概要

本プロジェクトは当初、夜道で電話をしているふりをするための機能を持った Web アプリケーションのプロトタイプ開発からスタートした。その後、iOS アプリケーションへと発展させ、GPS と合成音声を用いた防犯機能を実装した。

しかし、ユーザからのフィードバックを受け、夜道での不安を軽減するには家族やパートナーとの連携が重要であるという新たな課題が明らかになった。そこで、プロジェクトの方針を転換し、女性が安心して夜道を歩けるよう、家族やパートナーと連携する機能に特化したアプリケーション「あんしん夜道」の開発に注力することになった。

「あんしん夜道」では、自動的な帰宅見守り機能、夜道の不安を共感するため

のアニメーション機能、円滑なコミュニケーションを図るための通話・チャット・リアクション機能、そして緊急時に備えた各種ツールなど、当初の目標に沿った機能を実装することができた。加えて、実際のユーザを対象とした実証実験やヒアリングを重ね、UI/UXの改善にも取り組んだ。

10. プロジェクト評価

「あんしん夜道」は、女性の安全という社会的課題に対して、家族やパートナーとの連携に着目し、GPS やコミュニケーション機能を活用した独自のアプローチで解決を目指す点が高く評価できる。特に、自動的な帰宅見守り機能と、状況を共感するためのアニメーション表現は、ユーザのニーズを的確に捉えた革新的な試みである。

また、開発プロセスにおいて、プロトタイプ段階からユーザの声に真摯に耳を傾け、当初の方針を大胆に転換したことは、ユーザ中心の開発姿勢の表れといえる。実際のユーザを交えた実証実験を通じて、機能やUIの改善を重ねた点も高く評価したい。

一方で、プライバシーやセキュリティの確保、バッテリー消費の最適化など、実用化に向けた課題も残されている。しかし、本プロジェクトで培ったユーザ目線での開発アプローチは、これらの課題の解決にも活かされるものと期待される。

総じて、「あんしん夜道」は、女性の抱える夜道の不安という問題に対して、技術とユーザ理解を融合させた新しいソリューションを提示した点で大いに評価できる。今後の展開に注目したい。

11. 今後の課題

「あんしん夜道」は、リリース後の利用者獲得に向けて、石戸谷氏が所属する女性コミュニティを中心とした戦略的な普及活動を計画している。本アプリが目指すのは、夜道で不安を感じる女性だけでなく、彼女たちを支える家族やパートナーにも利用してもらい、より広範なユーザ層への浸透を図ることである。

さらに、「あんしん夜道」の普及を通じて、性別による不平等や安全性の問題に対する社会的な理解を深めていくことも重要な目標となっている。本アプリが新たな防犯の選択肢として認知されることで、ジェンダーギャップの解消に向けた議論が活性化することが期待される。

将来的には、ユーザからのフィードバックを元に、機能やUIのさらなる改善を進めると共に、プライバシーとセキュリティの確保、バッテリー消費の最適化など、実用面での課題解決にも注力する方針だ。また、収集した位置情報やユーザ行動のデータを活用し、より高度な見守りサービスの展開や、自治体などと連携した地域の防犯活動への貢献なども視野に入れている。

「あんしん夜道」が目指すのは、女性が安心して夜道を歩ける社会の実現であ

る。本アプリを起点として、技術と社会の協働による新たな防犯インフラの構築が進むことを期待したい。